# 京都大学

## 医療技術短期大学部紀要

第6号

1986年

#### 目 次

総	説		
	OTSUK	A T.: Phantom Limb, Phantom Pain and Stump Pain	n 〈Part I〉·········· 1
報	强 告		
		首,森永敏博,黒木裕士,角南昌三,秋山泰高,藤田十佐, aたきり老人の骨折の初期治療	
		子,永見桂子,城戸国利:本学助産学専攻科学生の臨床英語 -昭和60年度における試み―	
原	著		
	-	f:昼夜交代勤務者の態度変容に関する測定法の開発につい f:肩関節運動からみた末梢神経障害	
	菅沼美奈	※子,三井政子,藤田峯子,山下浩子,家森百合子,鈴木川 ※者の出生季節について	順子:脳性麻痺
	運.	:,森永敏博,鈴木康三,角南昌三,高塩純一:健常者の <sup>3</sup>  動学的研究	
		子:リッチの第7詩集 Diving into the Wreck 雑草はタールに花咲く―	73
		-: らいに対するらい患者の考え方 -北部インドにおけるらい患者の分析—	88
		- , 龍見信哉, 松浦俊平:指尖容積脈波法を用いた妊婦血管 引する検討	
	中村定男	:球状イオンビーム・プラズマ系における分散関係式 …	103
	石井誠士	::「健康科学」への視角 一西ドイツの最近の研究状況の	検討を通して111
		::人間の現在 一哲学的省察一口	
投	稿規定 …		139
編	集後記		

医短部紀要

ISSN 0286 - 7850

- 投稿:投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員(元教職員を含む)が著者、または共著者であるものに限る。 論文の受付:原著(表紙、本文、図、表など)はコピー2部を添え(計3部)、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付けおよび全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。原稿の書き方:原稿は、次の規定に従って書かれたものであること。
  - 1. 表紙(原稿第一枚目)の前半には表題, 著者名,所属およびその所在地,ランニン グ・タイトルをこの順に従って書く。なお, 外国語原稿の場合は,上記各項の日本語を 併記する。

後半には原稿の枚数,図,表の数,別刷 希望部数を書く。筆者の所属の表記は,筆 頭者は無記号,共著者の所属が異なる場合 はその著者名の右肩およびその所属名の冒 頭に\*,\*\*……印をつける。

- 原稿には、英文の表題、著者名、所属、 抄録(20行、または200 words 程度) および Key words (8 語以内) をつける。著者 名の姓は、大文字で表記する。
- 3. 欧文原稿および英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として,常用漢字,ひらがな,現代かなづかいを用い,B5版の400字詰横書き(論文の内容上とくに必要な場合は縦書き)原稿用紙に清書する。外国語固有名詞(人名など)は原語を,一般に日本語化された外国語は,片かなを用いる。度量衡は,CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の

例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行 あける。原著論文の緒言 (INTRODUC-TION), 材料 (MATERIALS), 方法 (METHODS), 結果 (RESULTS), 考 察 (DISCUSSION) などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

- 1., 2. ……行の第1字目に記す。
  - 1), 2)……行の第2字目に記す。
  - a., b. ……行の第2字目に記す。
    - a), b)……行の第3字目に記す。
- 5. 図 (Figure) および表 (Table) には、それぞれ別の通し番号をつける。図版 (Plate) や写真 (原則として白黒) は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は(14×20 cm)以内にまとめる。 図は台紙(20×26 cm 以下)に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図,表の説明文は,まとめて原稿の末尾 につけ,原稿本文中の欄外余白部に,図, 表の挿入位置を朱記し明示する。

- 6. 謝辞は,本文の末尾に入れる。
- 7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用 文などの右肩に,その文献番号を<sup>13</sup>, <sup>1,3,63</sup>, <sup>2-5)</sup> のように記す。

#### 雑誌の場合

全著者名,表題,掲載誌名,巻数(必要であれば号数),頁数(頁一頁),発行年(西暦)の順に記す。雑誌略名は,日本医学雑誌略名表(日本医学図書館協会編)および Index Medicus に従う。

[例]

- Sakaguchi, K. & Jameson, E. W.: Two new fleas from Japan. J. Med. Zool. 10: 156-162, 1959.
- 管沼美奈子,内山和美,三井政子:性周期 記録表の試み,母性衛生19(1):76-82, 1978.

#### 単行本の場合

著者名, (表題), 書名 (版数), (編者名), 引用頁 (頁一頁) または (総頁数), 発行所, 発行地, 発行年 (西暦) の順に記す。

[例]

- 1) Wintrobe, M. M.: The erthrocyte. In Clinical Hematology, 7th ed., p. 80-220, Lea and Febiger, Philadelphia, 1974.
- Schwartz, T. W. & Tager, H. S.: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In Gut Hormones, 2nd ed., ed. Bloom, S. R. & Polak, J. M., p. 202-205, Churchill Livingston, Edinburgh, London, Melbourne, New York, 1981.
- 3) Hodgkin, A.L.: The Conduction of the

- Nervous Impules. 108P., Liverpool Univ. Press, Liverpool, 1964.
- 4) 冨田 仁:救急時検査の手技と解釈,アミラーゼ「検査診断マニュアル (第1版)」 冨田 仁,熊谷直家,内田耕太郎編,p.96-99,メヂカルフレンド社,東京,1978.
- 5) 城戸幡太郎:文化心理学の探究,390P.国土社,東京,1970.
- 原稿の枚数:原著論文,総説は,原則として図表などを含め刷り上り10頁以内,短報などは同じく4頁以内とする。なお,本誌1頁は,400字詩原稿用紙約4枚分に相当する。図は,手札大(9×13 cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。
- 校 正:著者による校正は、再校までとし、 校正時における内容の変更や追加は認めない。 印 刷 費:原図の描画を外部に依頼するとき や、カラー写真印刷を希望するときなどは、 その経費は著者の負担とする。
- **別 刷**:別刷は50部を単位とし,50部を える分の経費は原則として著者の負担とする。

#### 編 集 後 記

紀要第6号をお届け致します。本号には総説、報告、原著論文あわせて13編の論文が掲載されております。投稿された論文の分野が広く、編集委員による閲読にはいろいろと苦労がございましたが、どの論文もそれぞれの分野に於て有意なものであると考えております。次号にも多くの先生方から御投稿いただきますことを編集委員一同お待ち致しております。

編集の都合上、締切日を延長せざるをえなかったこと、並びに論文の一部のみを先に届け残りを その後に提出された為に、実質上、再延長を認める形となったものが一部あったことは、初めから 締切日を守った人に対して公平を欠いたと反省致しております。

投稿された論文を総説,報告,原著論文の何れに分類するかを判断する必要があります。 文科系論文の場合,問題の捉え方,解釈,主張等にはおおいに著者の感性,主観が入りうるかと思いますこれに比して理科系論文の場合は事実から遊離した主張は出来ず,一つの事実から次の事実または将来の事実へと結び付けるのが主張の眼目になります。 著者の専門分野に属する論文ならば,そこに新知見が含まれているかどうかによって,価値判断を別にすれば,原著かどうかの区別はだいたい出来ます。 しかし,たとえば理科系の人が専門から離れて文科系的な論文を提出した場合,専門の原著論文として取り扱うことは出来ず,かと言って文科系の論文に比して不利に取り扱うことも出来ません。今後はもっと論文の内容に即した分類を行う必要が生じるものと思われます。

#### 昭和61年10月

紀要編集委員長	中	村	定	男				
紀要編集委員	福	崎		哲	石	井	誠	士
	加	茂	胦	子	城	戸	國	利
	木	俣	祐	子	岸	下	雅	通
	松	永	Œ	人	≡	好	暁	光
	野	村		嶬	营	沼	美系	子系
	鈴	木	康	三				

(ABC順)

#### 京都大学医療技術短期大学部紀要 第6号

Annual Reports of the College of Medical Technology, Kyoto University No. 6

昭和61年12月10日 印刷·発行

印刷明文舎印刷株式会社 京都市南区吉祥院池ノ内町10

発 行 京都大学医療技術短期大学部 京都市左京区聖護院川原町53

#### ANNUAL REPORTS

#### $\mathbf{OF}$

### THE COLIEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY, KYOTO UNIVERSITY

No. 6

1986

#### **CONTENTS**

Reviews
Otsuka T.: Phantom Limb, Phantom Pain and Stump Pain (Part I) 1
Reports
Hama H., Morinaga T., Kuroki H., Sunami M., Akiyama Y., Fujita T. and Senaha Y.: Initial Treatment of the Bed-Ridden Senile Case with Fracture
Originals
Fukuzaki S.: Outline of a Method for Evaluation of Behavioral Changes of Workers under Alternating Day-and-Night Shift System
Kamo E.: Adrienne Rich's Diving into the Wreck —A Weed Flowering in Tar— 73
Osaka R.: Leprosy Patients Views on Leprosy —An Analysis of Leprosy Patients in Northern India————————————————————————————————————
Nakamura S.: A Dispersion Relation for a Spherical Ion-Beam Plasma System103 Ishii S.: A View of Healthscience —Based on the investigation of the current situation in Germany—
Instructions to Authors
Editorial Notes

Ann. Rep. Col. Med. Tech., Kyoto Univ. ISSN 0286 - 7850